

— 洗濯を例にした情報について —

○工藤千草 小林衣子 竹井智子 小日向知子

（ライオン家庭科学研究所）

【目的】近年若者の家事に関する知識や技術の低下、家庭での家事教育の不十分さが話題になることが多い。一方、進学や就職を機会に独り暮らしをはじめ、何らかの形で家事をこなしているが、そのような若者の家事生活に関する報告は少ない。そこで、独り暮らしの若者の衣・食・住の家事に対する意識や実態を把握するとともに、洗濯を例にとり、情報入手経路、知識、技術の修得程度を探り、家事情報の伝達方法について考察した。

【方法】関東・関西・中部地区の大学6校に在籍する独り暮らしをして2年前後の男女学生約250人を対象に留置・自記入により、アンケート調査を行った。

【結果】家族と同居時、常に家事分担をしていたものは1割に満たない。また、家事経験の中では「部屋の掃除」、「インスタント食品を作る」、「洗濯物をたたむ」が上位であった。関心事は友人関係や趣味で家事は予想通り低い結果だった。洗濯を例にとると、普段着以外の衣類はクリーニングに出す率が高く、自宅での洗濯では洗濯機任せで、洗剤以外の仕上げ剤や前処理剤の活用は低い。また、衣類の変色や型崩れなどの失敗を多くの者が経験していた。過去の情報入手先としては「家族」が最も多く、今後の入手先として「洗剤・衣類の表示」、「家事関係の本」などがあがっていた。そこで、彼らの親の年代に当たる主婦の家事に対する実態や意識とも比較することで、若者の家事行動の特徴を明らかにした。以上の結果を考察しご報告いたします。